



令和6年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

厚木市教育研究所



厚木市教育研究所
あゆみ回廊

目 次	ページ
1 調査の概要	1
2 調査結果の解釈等に関する留意事項	2
3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果	2
(1) 小学校 国語の主な結果（平均正答率）について	3
(2) 小学校 算数の主な結果（平均正答率）について	6
(3) 中学校 国語の主な結果（平均正答率）について	9
(4) 中学校 数学の主な結果（平均正答率）について	12
4 児童・生徒質問調査の結果	15
5 考察	24
6 あつぎの学びの充実・改善のヒント	30

令和6年度全国学力・学習状況調査に係る 厚木市立小・中学校の調査結果について

小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に、令和6年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。教育委員会では、今回の分析結果を踏まえ、教育施策の成果や課題等を把握・検証し、今後の教育施策に反映するとともに、各小・中学校において、校長のリーダーシップの下、各教員が指導内容・方法の改善を進める支援をしてまいります。

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、改善を図る。
- イ 学校における個々の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年 小学校第6学年及び中学校第3学年

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査 小学校：国語、算数 中学校：国語、数学
 - ※ 平成30年度までは、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を分けて調査していましたが、平成31年度調査から一体的に問われることとなりました。
- イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・児童・生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
 - ・学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日 令和6年4月18日(木)

(6) 調査に参加した児童・生徒数

	国語	算数・数学	児童・生徒質問紙
小学校	1,681人	1,680人	1,697人
中学校	1,649人	1,651人	1,676人

(参考) 全国・県・市の公立学校の参加校数

	小学校	中学校
全国(公立)	18,529校	9,347校
神奈川県	853校	418校
厚木市	23校	13校

2 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童・生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意が必要です。

また、平均正答数・平均正答率（※）については、各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要です。

さらに、平均正答率については、「全国学力・学習状況調査 報告書」（国立教育政策研究所）では、「平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない」としており、本市でも「平均正答率の±10%」を目安として調査結果を整理しました。

※ 平均正答数は、児童・生徒の正答数の平均の値です。

平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）です。

県と市の値は、整数値（四捨五入した数値）で文部科学省から示されています。

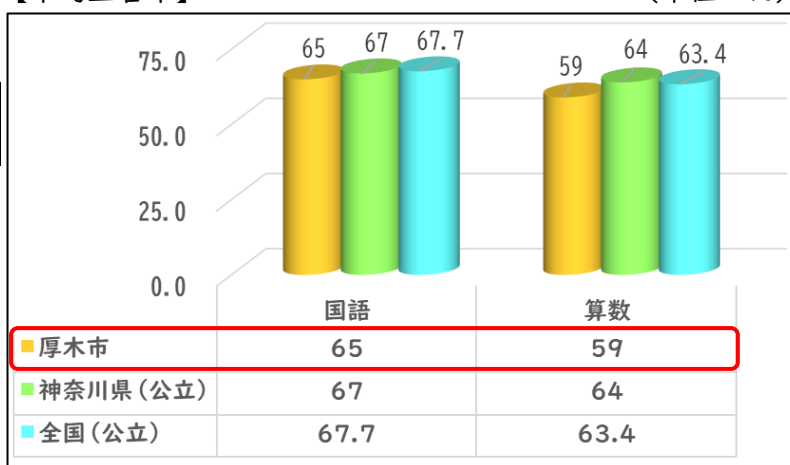
3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果

小学校

【平均正答率】

（単位：％）

	国語	算数
平均正答数	9.1問	9.5問
質問数	14問	16問

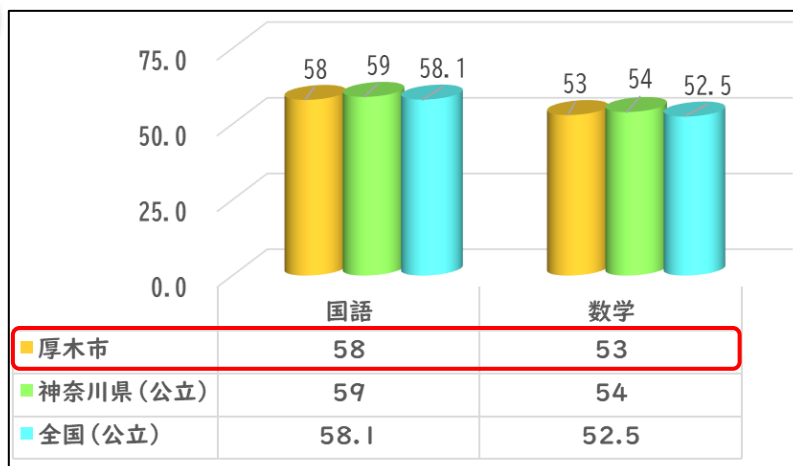


中学校

【平均正答率】

（単位：％）

	国語	数学
平均正答数	8.6問	8.5問
質問数	15問	16問



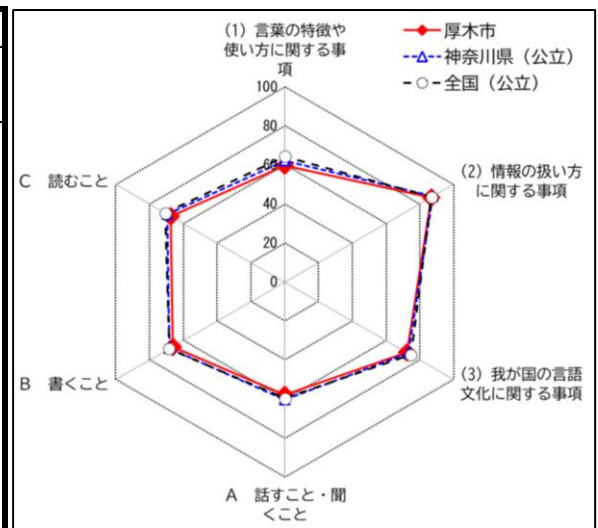
(1) 小学校 国語の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の内容】

(単位：%)

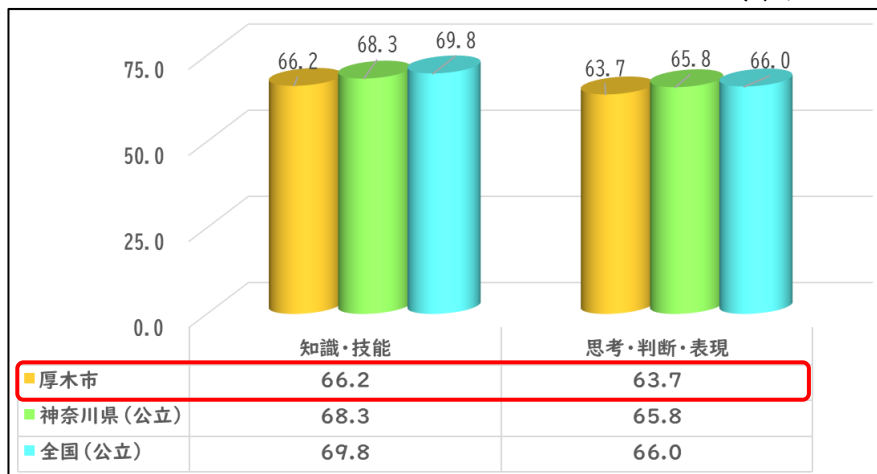
分類	学習指導要領の内容					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
区分	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
厚木市	59.6	86.5	72.3	58.0	66.4	67.6
神奈川県(公立)	62.3	87.7	73.3	60.3	68.3	69.6
全国(公立)	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7

(単位：%)



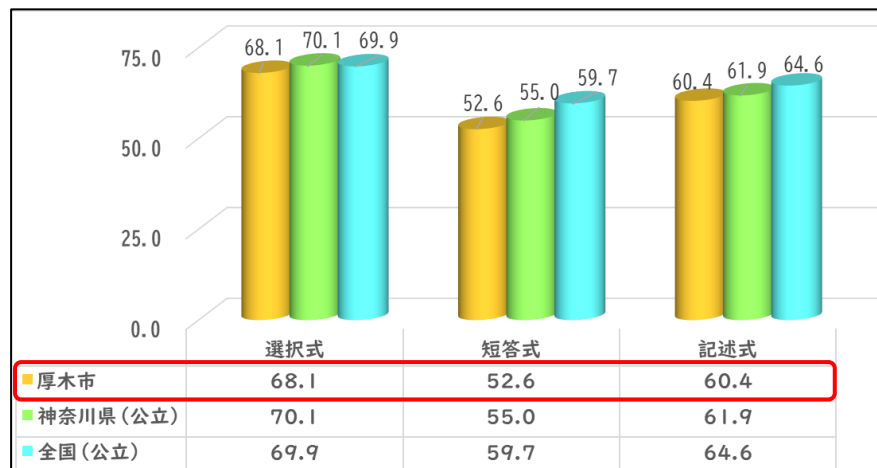
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市の平均正答率が80%以上の問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問一(1)

〔出題の趣旨〕

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	80.7%	81.3%	80.3%	+0.4

目的や意図に応じて、集めた材料を分けたり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多いと考えられます。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問一(2)

〔出題の趣旨〕

情報同士の結び付け方や、図を用いた語句同士の関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (2)情報の扱い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	86.5%	87.7%	86.9%	-0.4

複数の情報を関係付ける方法や図などを通して語句同士の関係を表す方法を理解し、使うことができる児童が多いと考えられます。

令和3年度調査から引き続き課題として捉えられる問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問二

〔出題の趣旨〕

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	52.1%	55.2%	56.6%	-4.5

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題があります。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

2 学校のよさを伝える文章を書く 設問三 ア

〔出題の趣旨〕

学年別漢字配当表※に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

※ 学年別漢字配当表は、小学校で学習する漢字を各学年に割り当てた表であり、各学年では、前の学年に配当された漢字を書くことを身に付けるよう指導することとされています。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	38.0%	41.8%	43.4%	-5.4

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。

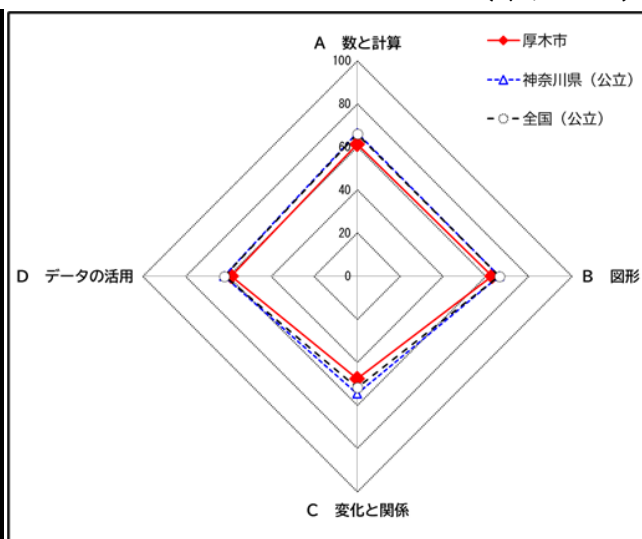
(2) 小学校 算数の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

(単位：%)

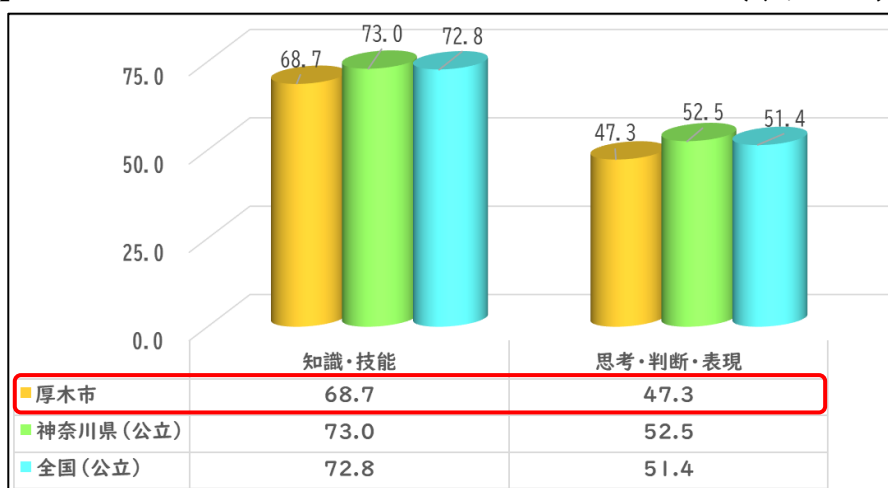
分類	学習指導要領の領域				
区分	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
厚木市	61.1	62.9	-	47.5	58.8
神奈川県 (公立)	66.5	66.2	-	54.5	62.0
全国(公立)	66.0	66.3	-	51.7	61.8

(単位：%)



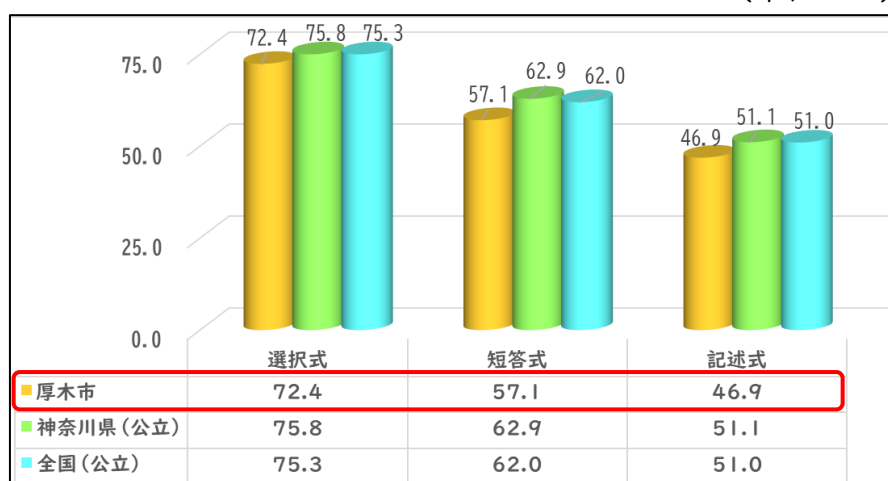
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

1 加法や減法の問題場面の数量の関係を捉え式に表すこと（折り紙） 設問（2）

〔出題の趣旨〕

数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

A 数と計算

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	87.4%	89.9%	88.5%	-1.1

数量の関係を□などの記号を用いた式で表すことできる児童が多いと考えられます。

本市の平均正答率が80%以上の問題

3 図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し立体図形について考察すること（見取図・展開図） 設問（1）

〔出題の趣旨〕

直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

B 図形

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	85.2%	85.5%	85.5%	-0.3

図形の見取図について理解し、かくことができる児童が多いと考えられます。

全国平均正答率との差が最も大きい問題

4 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること（道のりと時間と速さ） 設問（1）

〔出題の趣旨〕

除数※が小数である場合の除法（割り算）の計算をすることができるかどうかをみる。

※ 割り算で、割る方の数。

〔学習指導要領の領域〕

A 数と計算

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	59.2%	68.4%	70.1%	-10.9

除数が小数である場合の除法を計算することに課題があります。

誤答例 $540 \div 6$ として計算。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

- 4 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること
(道のりと時間と速さ) 設問(3)

〔出題の趣旨〕

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

〔学習指導要領の領域〕

C 変化と関係

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	27.1%	33.1%	31.0%	-3.9

二つの数量の関係に着目し、道のりが等しい場合など、場面に応じて速さの比べ方を考察することに課題があります。

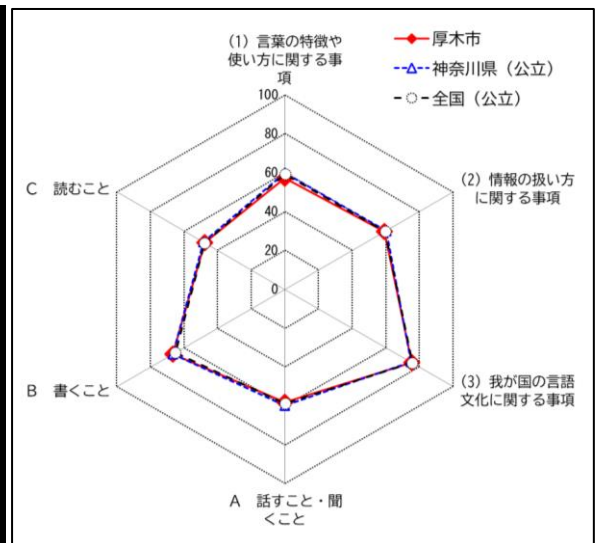
(3) 中学校 国語の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の内容】

(単位：%)

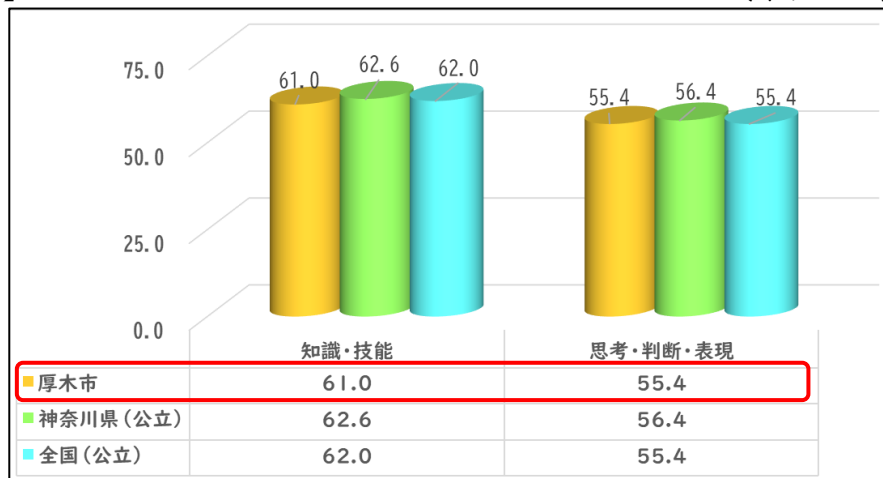
分 類	学習指導要領の内容					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
区 分	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
厚木市	57.3	59.3	75.5	58.1	66.6	47.8
神奈川県(公立)	60.0	60.3	74.8	59.9	66.8	48.5
全国(公立)	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9

(単位：%)



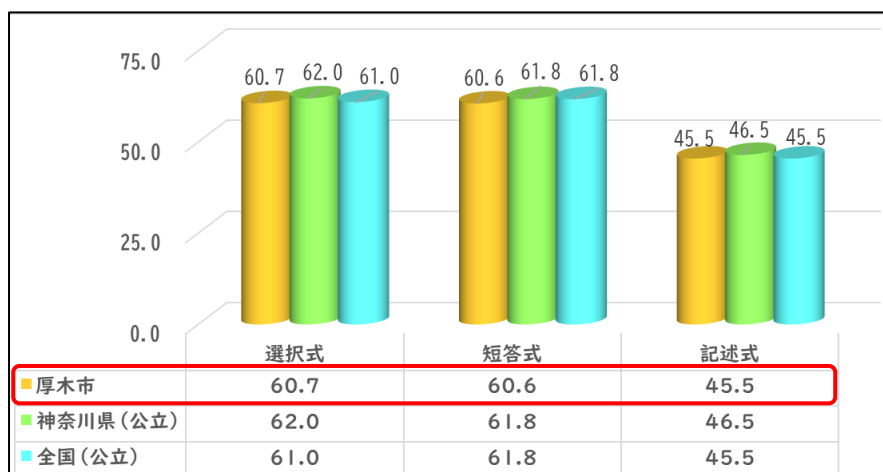
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

2 説明的な文章を読む(「葉の形」) 設問一

〔出題の趣旨〕

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	35.1%	35.7%	36.3%	-1.2

説明的な文章に掲載されている図表や写真が、文章のどの部分と関連しているのかを確認し、書き手の伝えたい内容を正確に読み取ることに引き続き課題があると考えられます。

令和5年度調査から改善の状況にあると考えられる問題

2 説明的な文章を読む(「葉の形」) 設問二

〔出題の趣旨〕

具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (2)情報の扱い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	77.0%	76.3%	75.2%	+1.8

具体と抽象など情報と情報との関係を理解することについては、問題形式等の違いを考慮する必要がありますが、改善の状況にあると考えられます。

(令和5年度中学校国語 3三 平均正答率62.9%)

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

3 物語を創作する(「紙の辞書」) 設問一

〔出題の趣旨〕

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	81.7%	82.8%	81.4%	+0.3

物語を創作する場面において、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、自分が伝えたいことを明確にすることができる生徒が多いと考えられます。

全国の平均正答率との差が最も大きい問題

3 物語を創作する(「紙の辞書」) 設問三

〔出題の趣旨〕

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

〔学習指導要領の内容〕

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔評価の観点〕

知識・技能

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	65.4%	66.0%	68.8%	-3.4

文脈に即して言葉の意味を捉え、漢字を正しく書くことに課題があります。

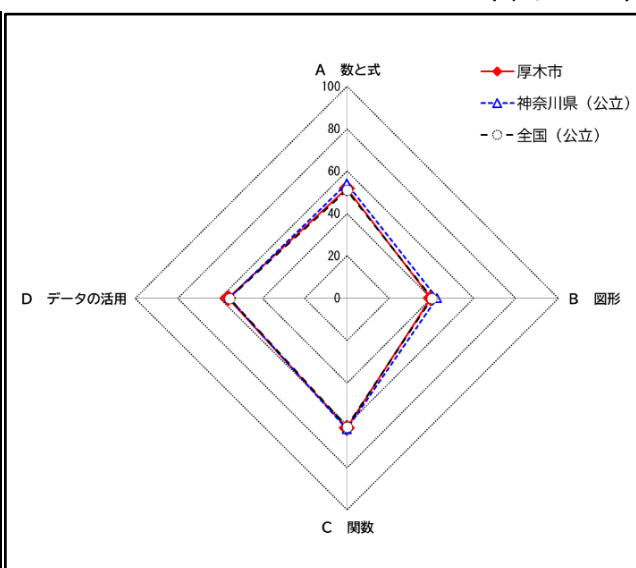
(4) 中学校 数学の主な結果（平均正答率）について

【学習指導要領の領域】

(単位：%)

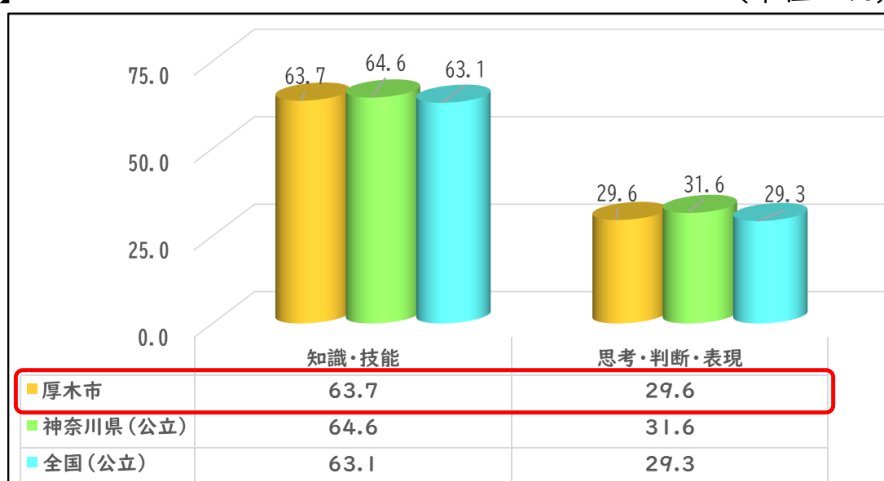
(単位：%)

分類	学習指導要領の領域			
区分	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
厚木市	52.0	39.8	61.4	56.1
神奈川県 (公立)	54.3	42.5	61.8	55.6
全国(公立)	51.1	40.3	60.7	55.5



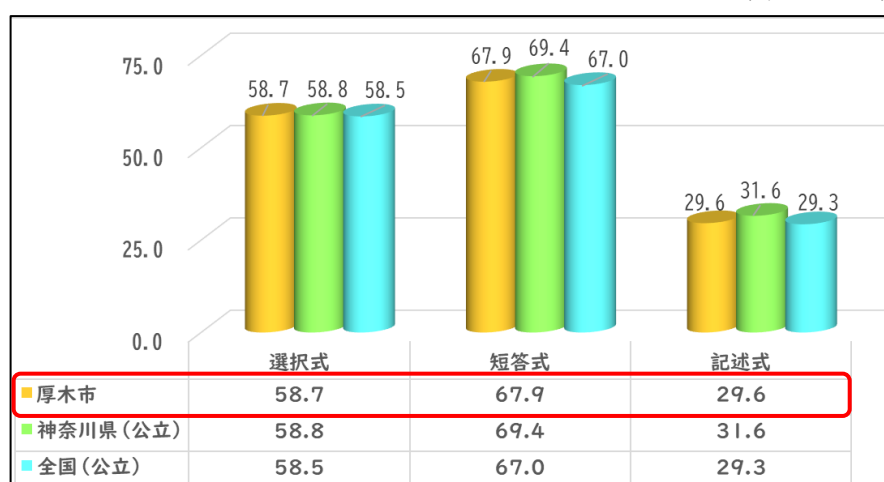
【評価の観点】

(単位：%)



【問題形式】

(単位：%)



【問題例】

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も高い問題

- 6 構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること（頂点の数の和） 設問（1）
 〔出題の趣旨〕
 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる。
 〔学習指導要領の領域〕
 A 数と式
 〔評価の観点〕
 知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	89.6%	90.8%	90.2%	-0.6

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる生徒が多いと考えられます。

本市の平均正答率が 80%以上の問題

- 8 日常的な事象における問題について、関数の関係に着目し、構想を立て解決すること（ストーブ） 設問（1）
 〔出題の趣旨〕
 二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。
 〔学習指導要領の領域〕
 C 関数
 〔評価の観点〕
 知識・技能

	厚木市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との差
平均正答率	84.9%	84.1%	83.4%	+1.5

二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができる生徒が多いと考えられます。

本市、全国及び神奈川県において平均正答率が最も低い問題

- 8 日常的な事象における問題について、関数の関係に着目し、構想を立て解決すること
(ストーブ) 設問(2)
〔出題の趣旨〕
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を式やグラフを用いて説明することができるかどうかをみる。
〔学習指導要領の領域〕
C 関数
〔評価の観点〕
思考・判断・表現

	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	17.1%	19.4%	17.1%	0.0

一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに、引き続き課題があると考えられます。
(平成30年度数学B3(3)の類題の正答率13.9%)

評価の観点「知識・技能」において平均正答率が最も低い問題

- 9 筋道を立てて証明し、図形を考察すること(2つの正三角形) 設問(2)
〔出題の趣旨〕
事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。
〔学習指導要領の領域〕
B 図形
〔評価の観点〕
知識・技能

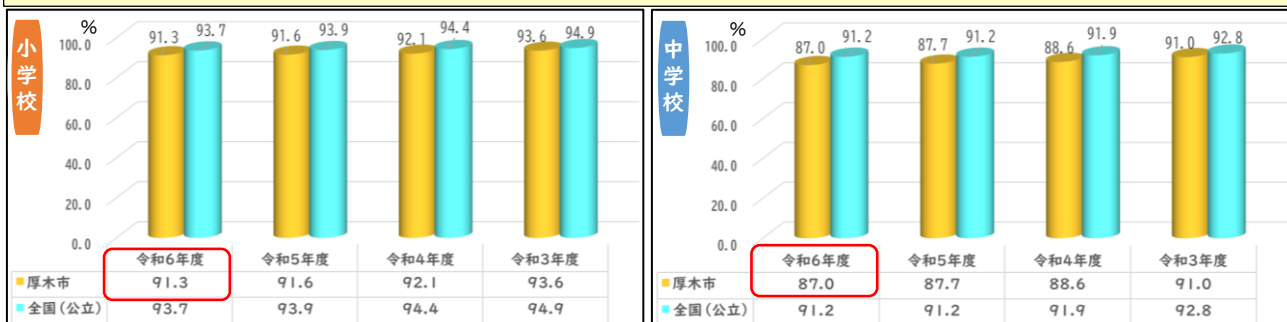
	厚木市	神奈川県(公立)	全国(公立)	全国との差
平均正答率	25.1%	28.3%	26.7%	-1.6

図形の性質を考える場面において、角の大きさに着目して事象を観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題があると考えられます。

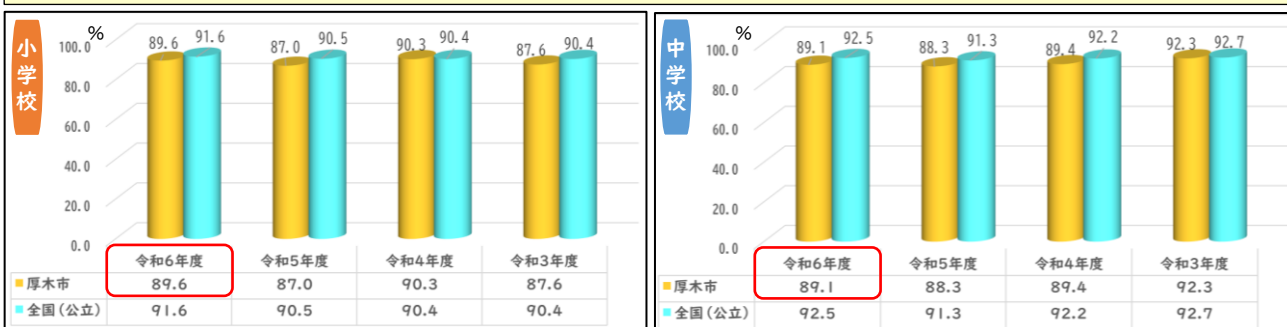
4 児童・生徒質問調査の結果

(1) 厚木市立小・中学校の児童・生徒の回答状況（85%以上の児童・生徒が回答）について
ア 基本的生活習慣等について

質問1 朝食を毎日食べている（している・どちらかといえば、している）

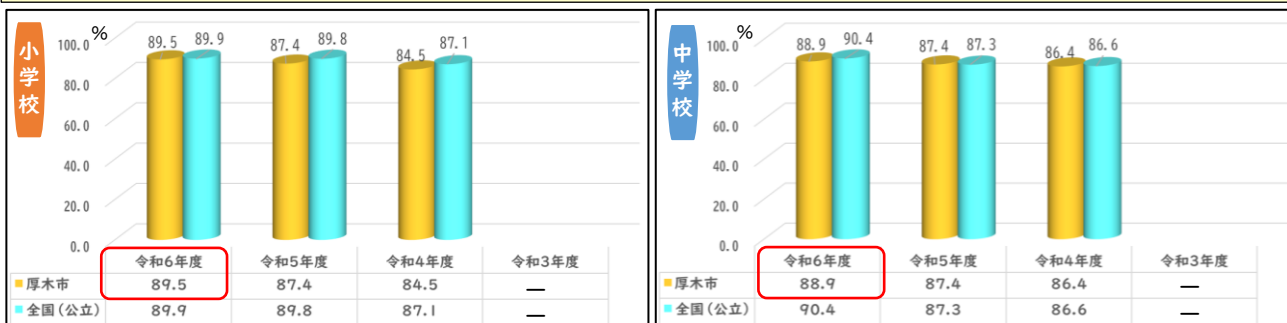


質問3 毎朝、同じくらいの時刻に起きている（している・どちらかといえば、している）

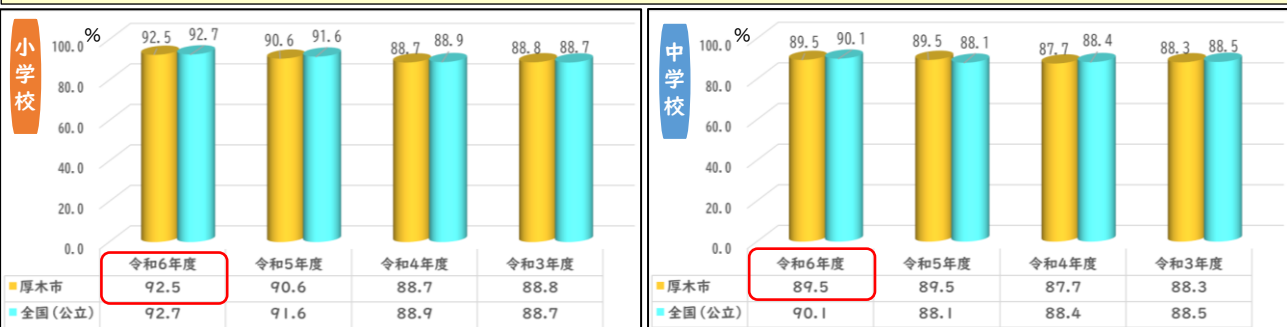


イ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

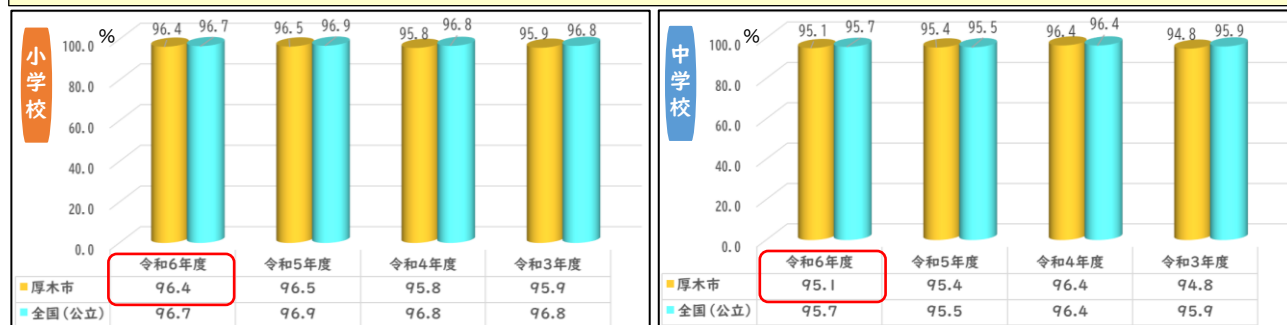
質問10 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



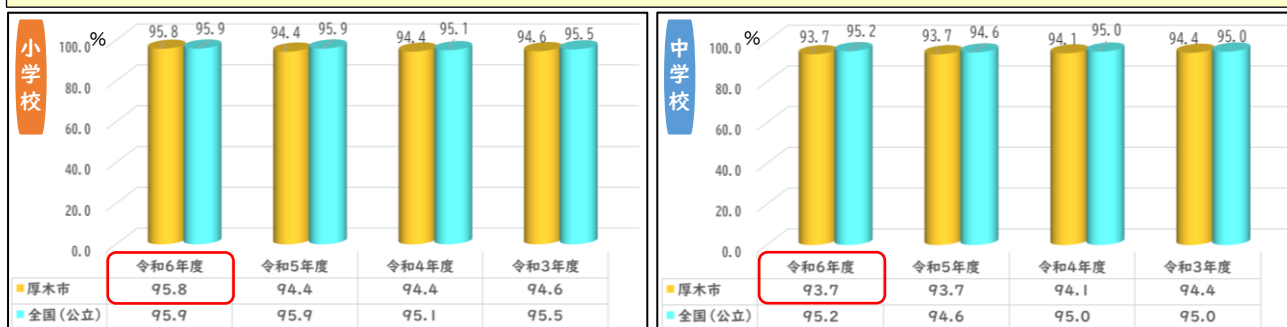
質問12 人が困っているときは、進んで助けている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



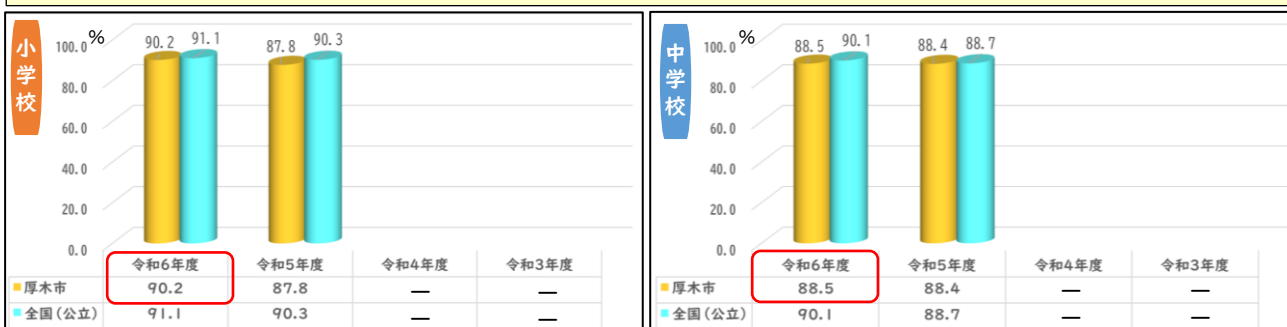
質問 13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)



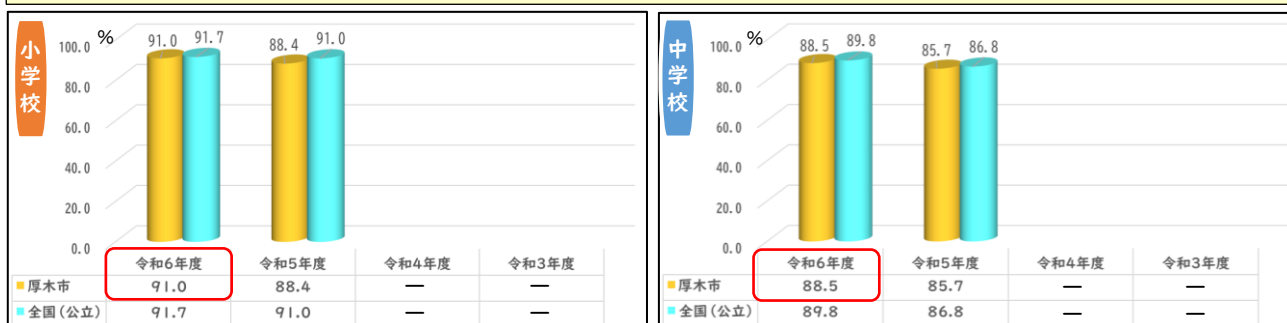
質問 15 人の役に立つ人間になりたいと思う (当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)



質問 18 友達関係に満足している (当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

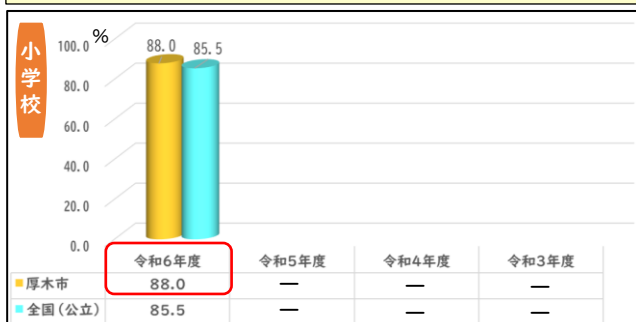


質問 19 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
(よくある・ときどきある)

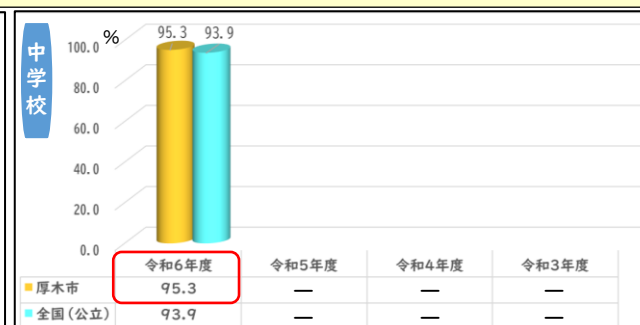


ウ ICT を活用した学習状況について

質問 28-1 ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)



質問 28-2 ICT 機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる
(とてもそう思う・そう思う)



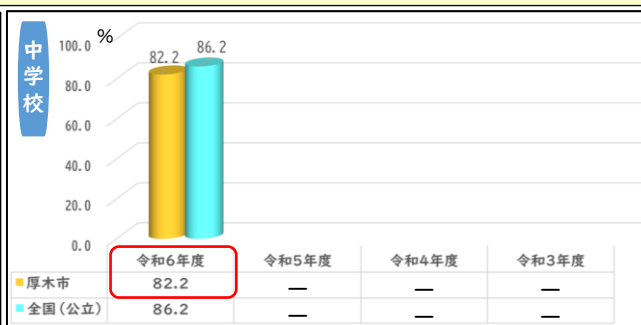
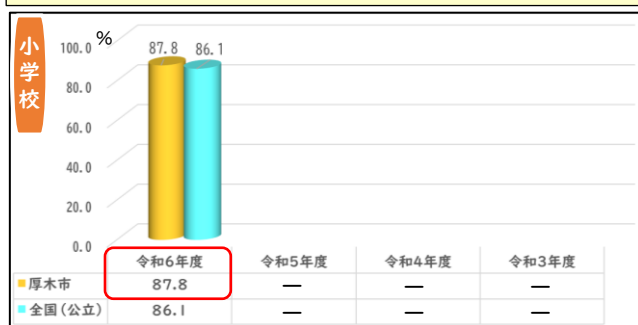
質問 28-3 ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)



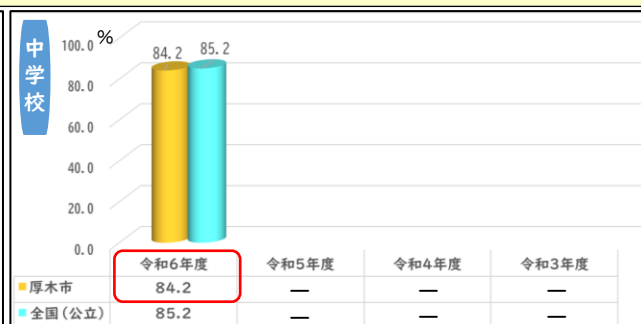
質問 28-4 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
(とてもそう思う・そう思う)



質問 28-6 ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
(とてもそう思う・そう思う)

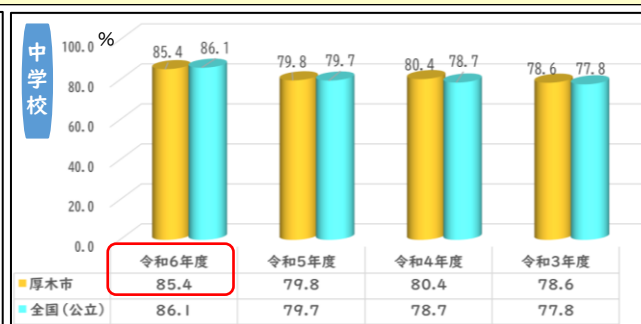
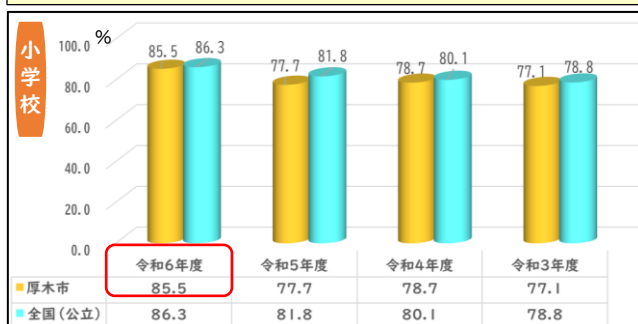


質問 28-7 ICT 機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる
(とてもそう思う・そう思う)

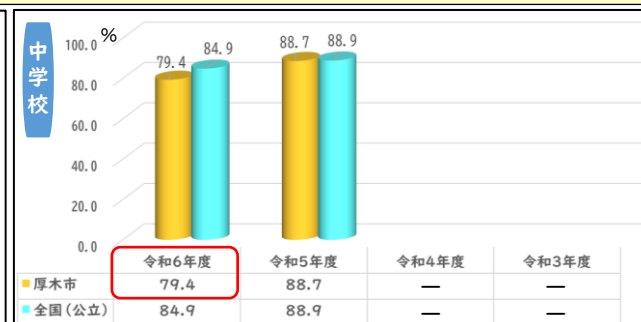
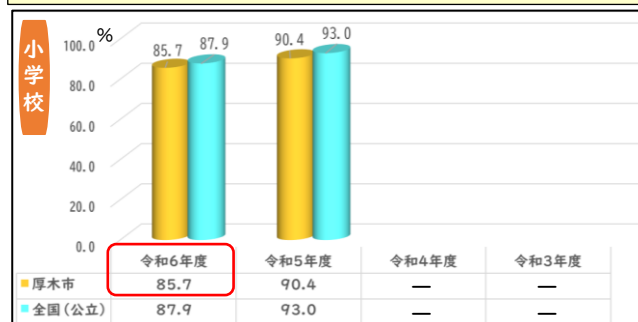


エ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

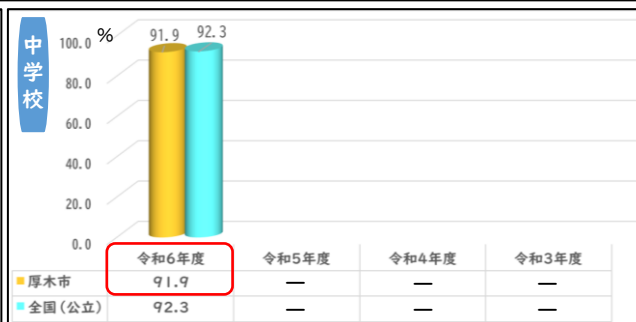
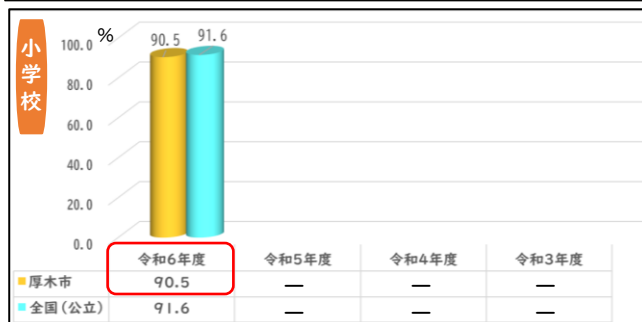
質問 33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)



質問 36 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)

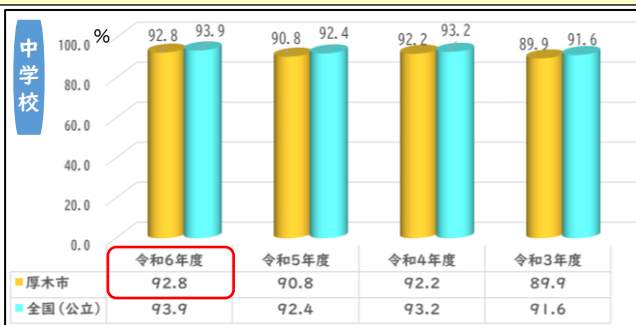
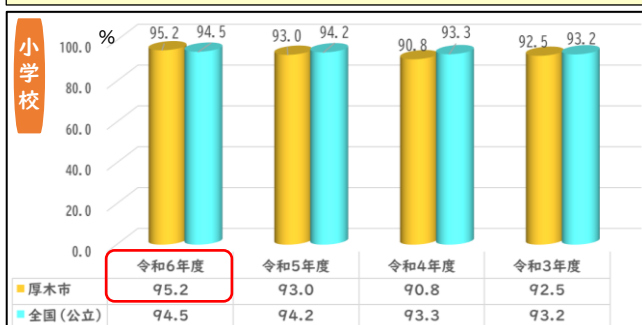


質問 37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

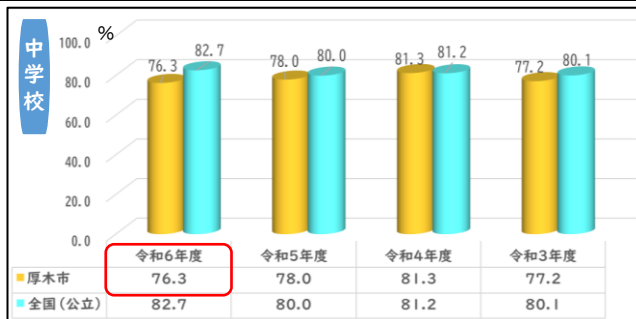
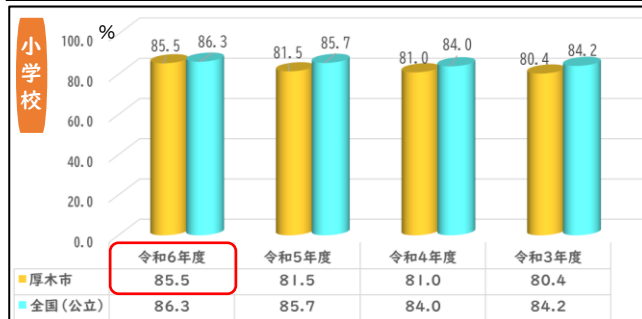


オ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等について（国語、算数・数学）

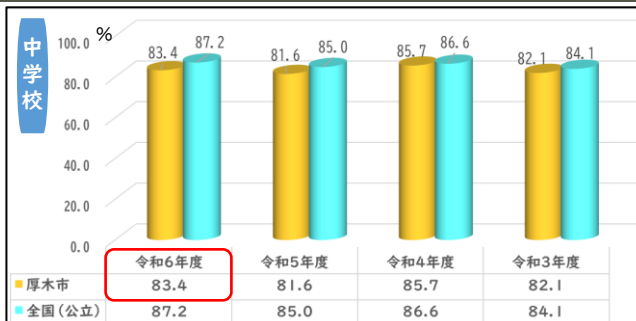
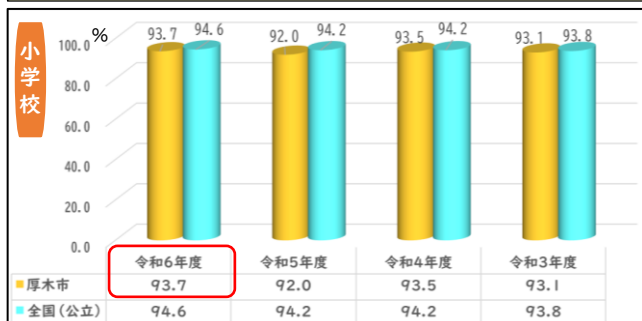
質問 43 国語の勉強は大切だ（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 44 国語の授業の内容はよく分かる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



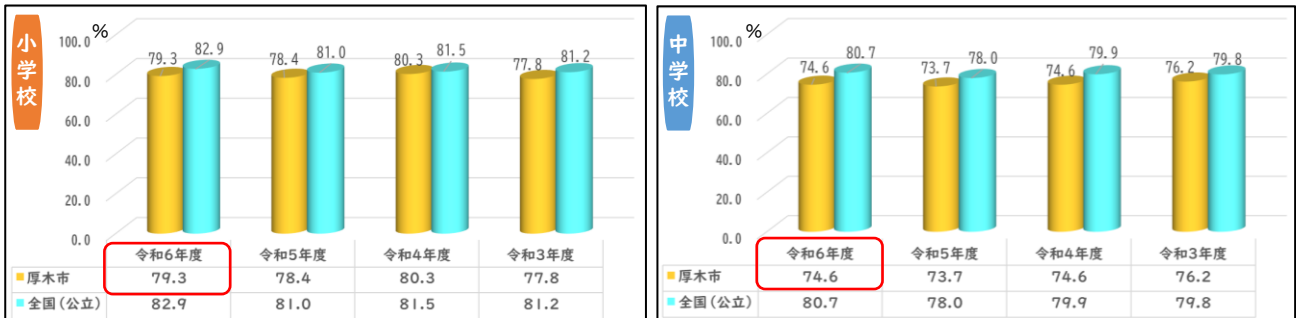
質問 51 算数・数学の勉強は大切だ（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



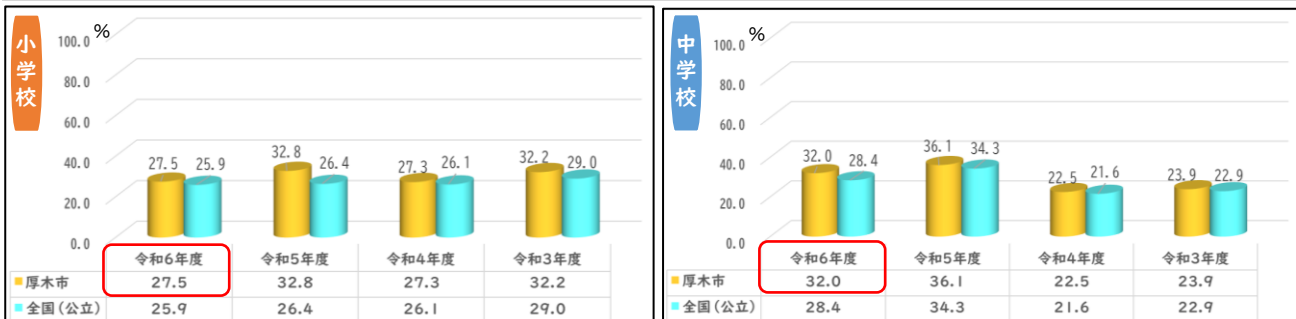
(2) その他の主な回答状況について

ア 基本的生活習慣等について

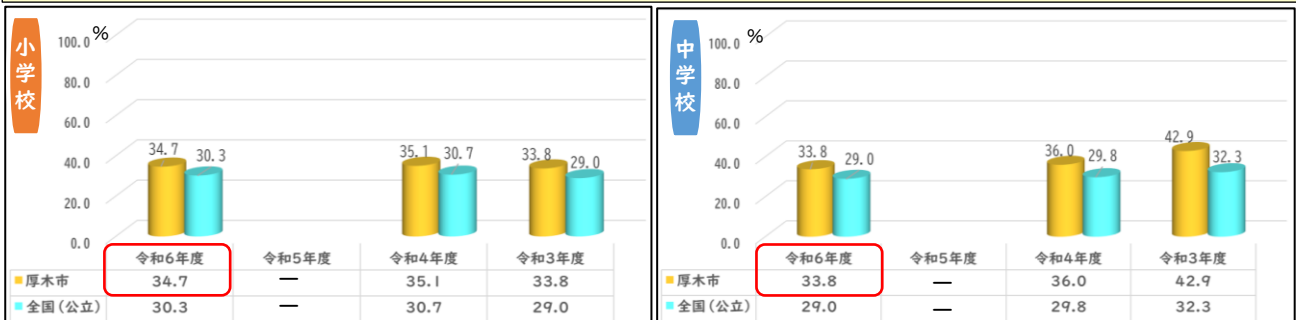
質問2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている（している・どちらかといえば、している）



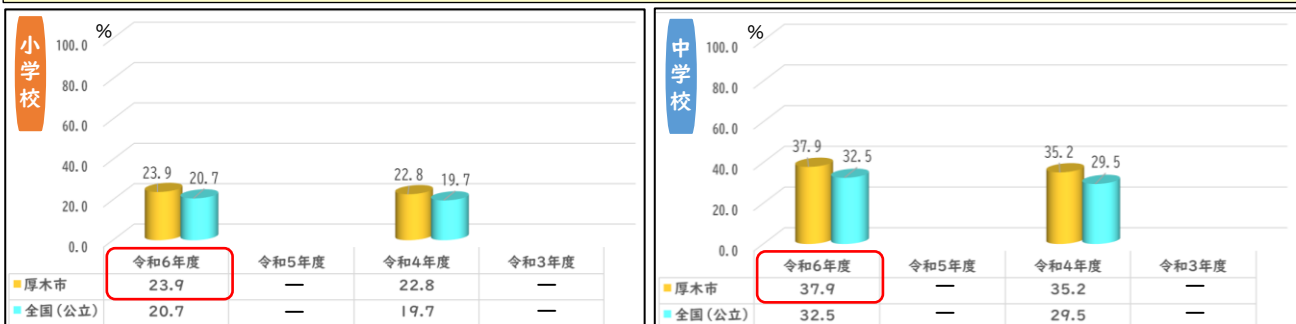
質問4 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除きます）。（全く使っていない）



質問5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。（3時間以上）

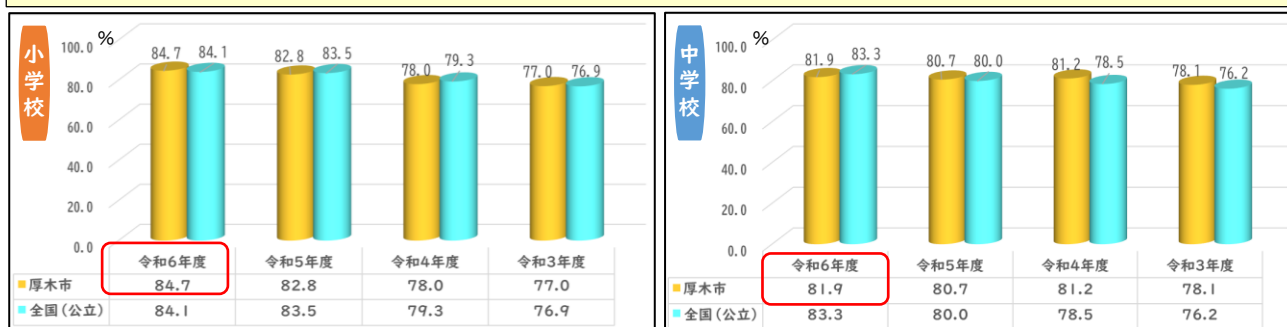


質問6 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）（3時間以上）

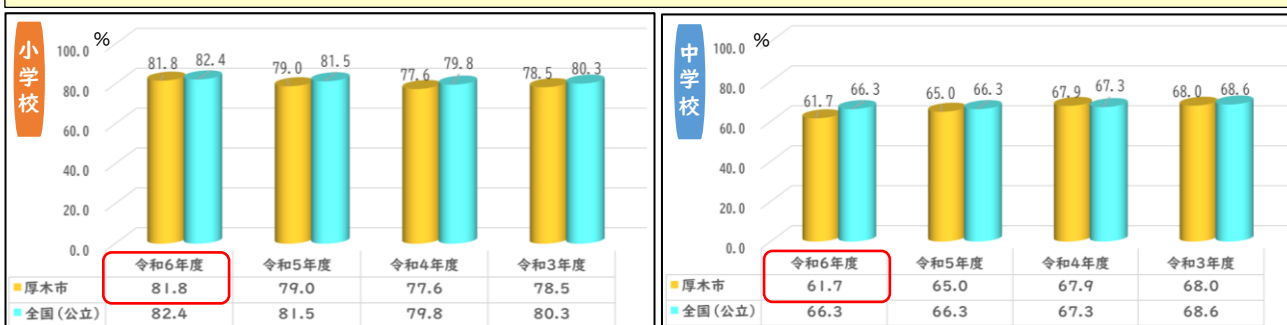


イ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

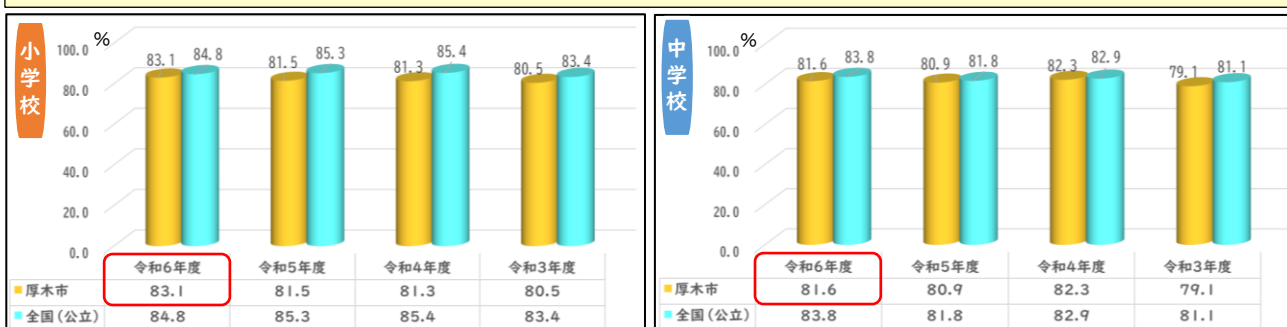
質問 9 自分には、よいところがあると思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



質問 11 将来の夢や目標を持っている（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

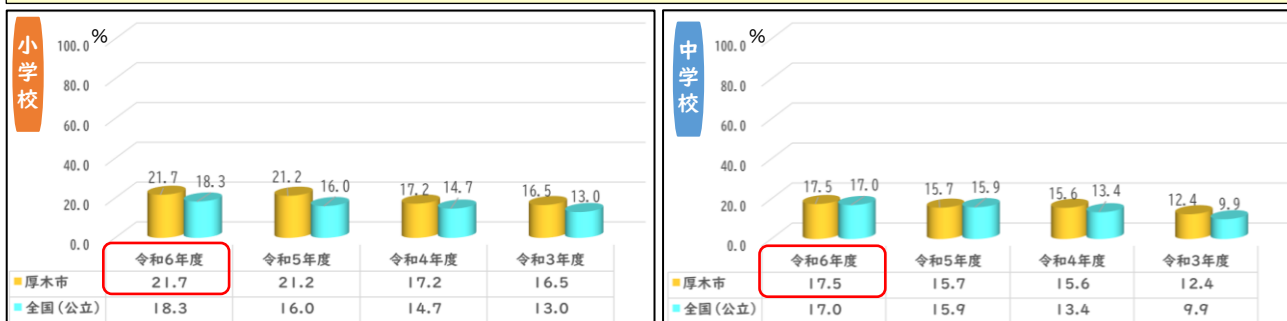


質問 16 学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）

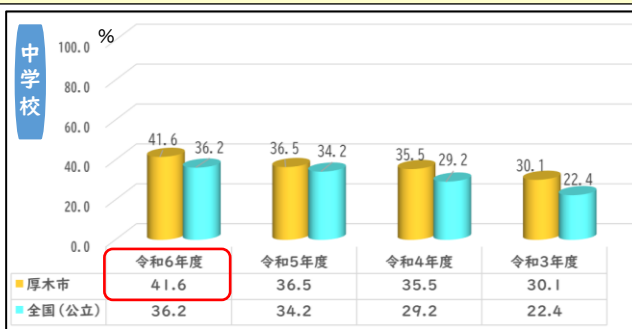
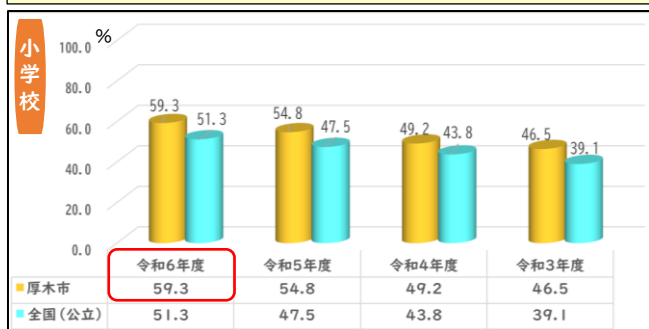


ウ 学習習慣、学習環境等について

質問 21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。（30分未満）

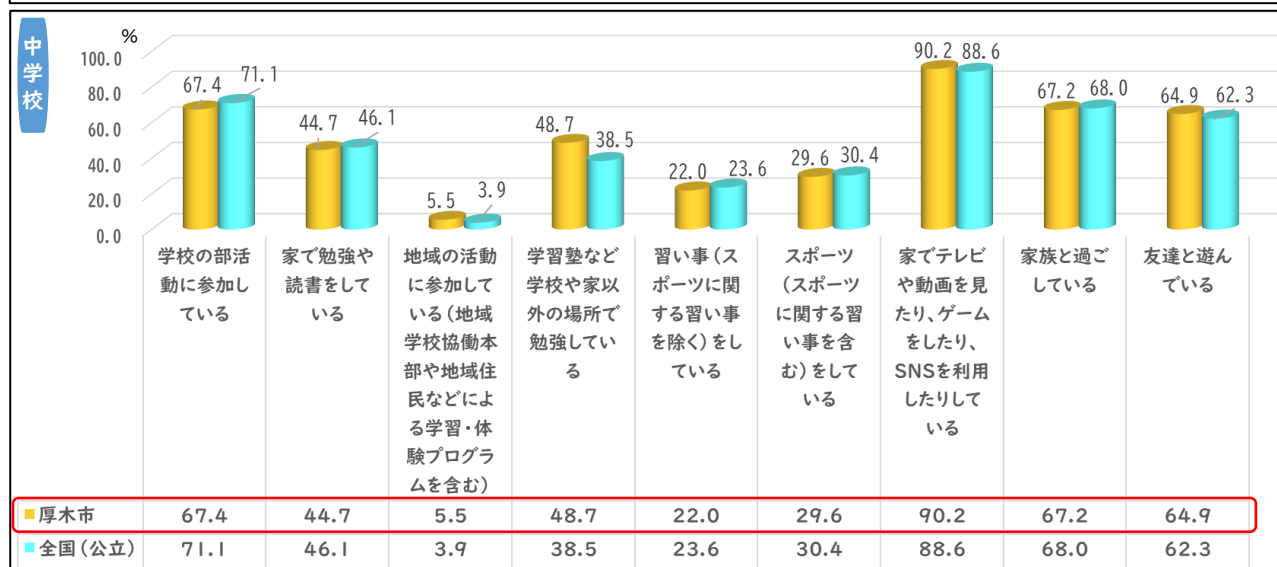
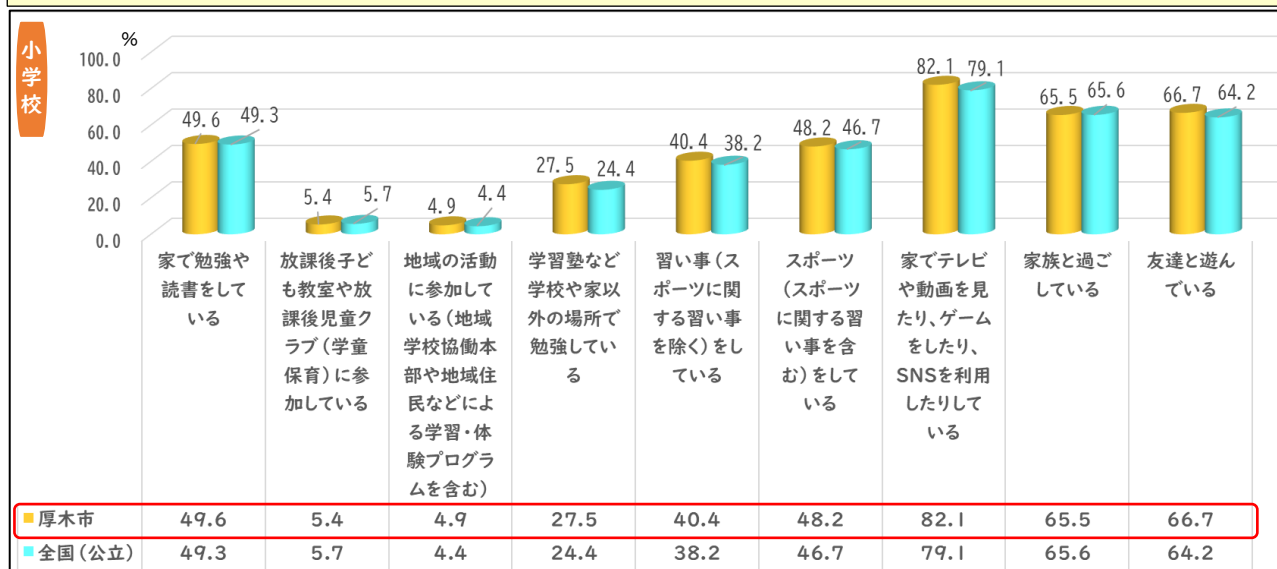


質問 22 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。（1時間未満）



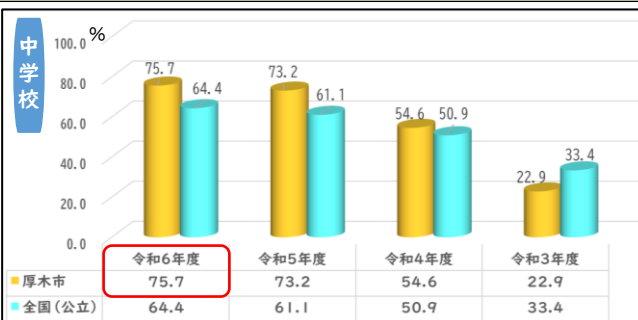
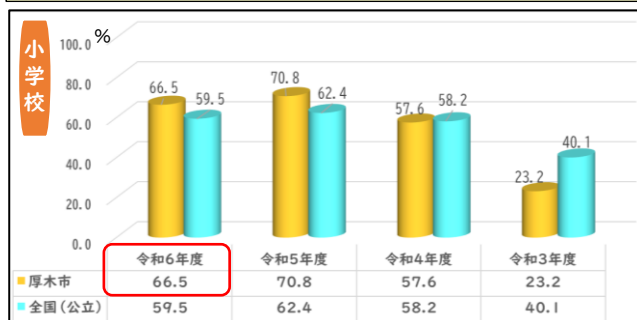
エ 地域や社会に関わる活動の状況等について

質問 26 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。【複数選択可】

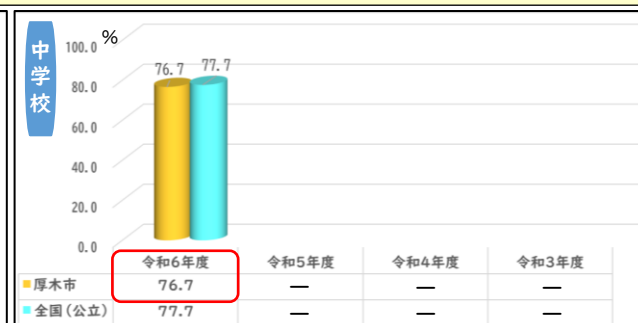
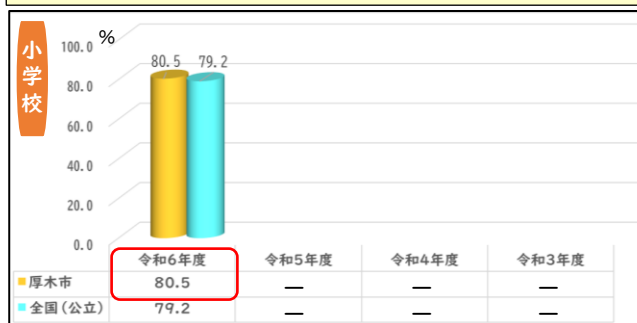


オ ICT を活用した学習状況について

質問 27 5 年生までに受けた授業（中学校は、1、2 年生までに受けた授業）で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。（週 3 回以上）

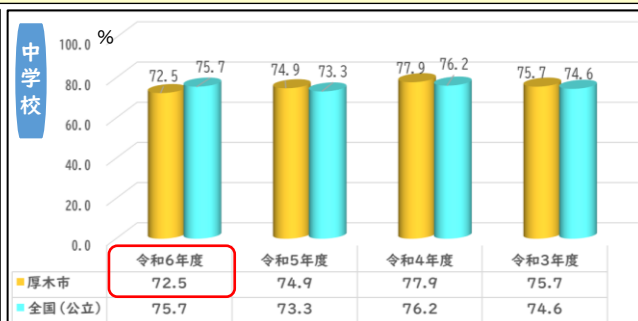
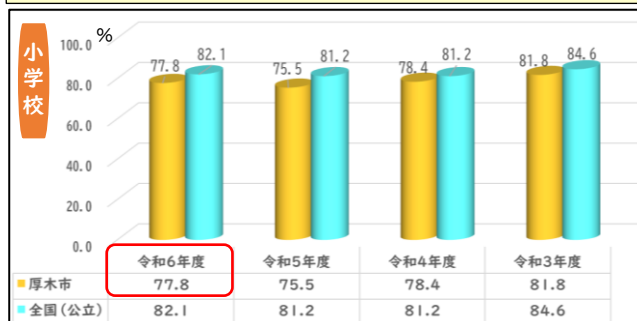


質問 28-5 ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる（とてもそう思う・そう思う）



カ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等について

質問 52 算数・数学の授業の内容はよく分かる（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）



5 考察

(1) 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果について

本市の市立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られませんでした。

【参照】「2 調査結果の解釈等に関する留意事項」及び「3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果」

		国 語	算 数
知識及び技能	小学校	○ 複数の情報を関係付ける方法や図などを通して語句同士の関係を表す方法を理解し、使うことができる児童が多いと考えられます。 ● 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。	○ 数量の関係を□などの記号を用いた式で表すことができる児童が多いと考えられます。 ○ 図形の見取図について理解し、かくことができる児童が多いと考えられます。 ● 除数が小数である場合の除法を計算することに課題があります。
	小学校	○ 目的や意図に応じて、集めた材料を分けたり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多いと考えられます。 ● 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題があります。	● 二つの数量の関係に着目し、道のりが等しい場合など、場面に応じて速さの比べ方を考察することに課題があります。
知識及び技能	充実・改善のヒント	□ 日常の学習の中で漢字を使って文章を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりする活動を取り入れる。 □ 新出漢字の読み方や意味を考え、文章の中での正しい使い方を身に付ける活動を取り入れる。	□ 整数の場合の計算の意味や仕方を活用して計算できるようにするために、筆算による計算の仕方を形式的に指導するのではなく、例を通して除法の性質を活用しながら理解を深める活動を取り入れる。
	充実・改善のヒント	□ 内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確かめたり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同していないかを確かめたりする場面を設定する。	□ 単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、求める学習活動を取り入れる。 □ 道のりが等しい場合、かかった時間で速さを比べられることを見出し、自分の言葉で説明する場面を設定する。

国 語

数 学

知識及び技能

- 具体と抽象など情報と情報との関係を理解することについては、問題形式等の違いを考慮する必要がありますが、改善の状況にあると考えられます。
- 文脈に即して言葉の意味を捉え、漢字を正しく書くことに課題があります。

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる生徒が多いと考えられます。
- 図形の性質を考える場面において、角の大きさに着目して事象を観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題があると考えられます。

中学校

思考力、判断力、表現力等

- 物語を創作する場面において、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、自分が伝えたいことを明確にすることができる生徒が多いと考えられます。
- 説明的な文章に掲載されている図表や写真が、文章のどの部分と関連しているのかを確認し、書き手の伝えたい内容を正確に読み取ることに引き続き課題があると考えられます。

- 一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに、引き続き課題があると考えられます。

知識及び技能

- 身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、それぞれの概念と実際の事柄とを結び付けて理解する学習活動を取り入れる。
- 日常の学習の中で漢字を使って文章を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりする活動を取り入れる。

- 図形の性質を考察する場面において、観察や操作、実験などを通して、成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現する活動を取り入れる。
- ICTを用いて図形を操作し、成り立つと予想される図形の性質を見いだす活動を取り入れる。

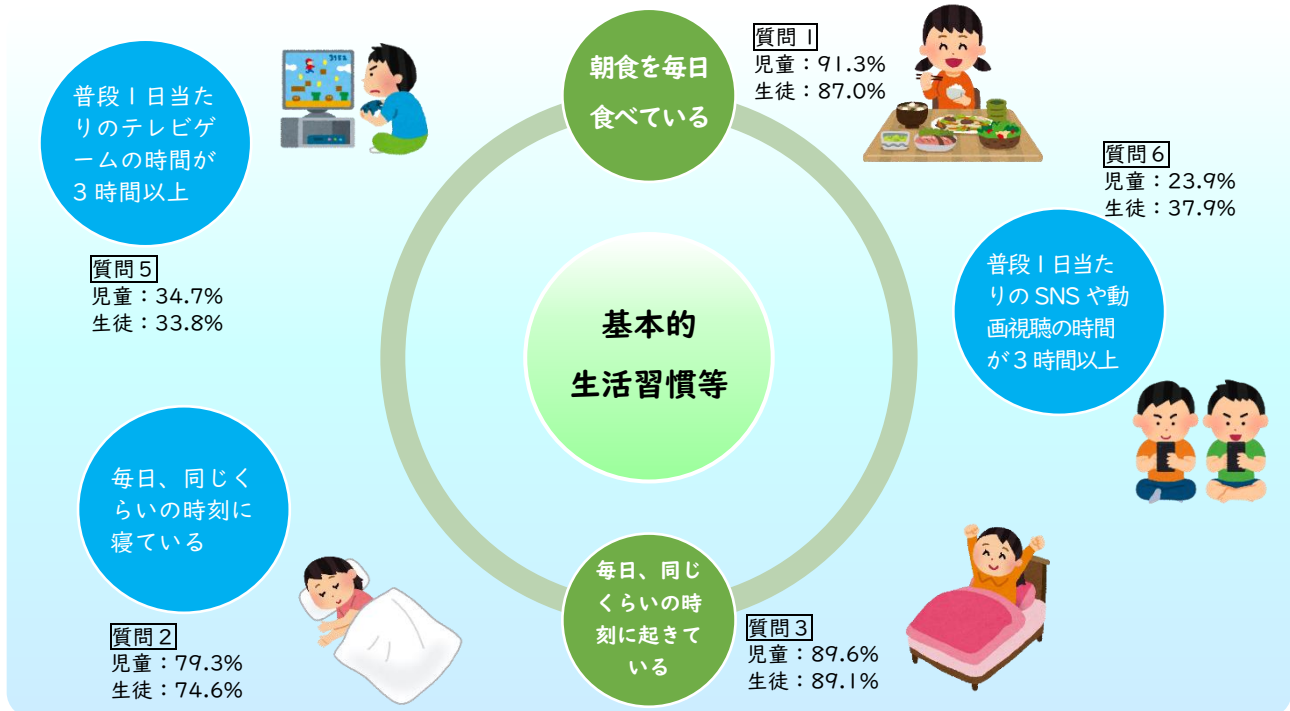
充実・改善のヒント

思考力、判断力、表現力等

- 図表や写真等を含む説明的な文章を読む際には、示されている図表等が、文章のどの部分と関連しているのかを確認する活動を取り入れる。
- 図表等が文章中にある場合とない場合とを比較し、図表等の効果を考えることを通して、筆者が図表を用いた意図を考える活動を取り入れる。

- 問題解決のために式やグラフをどのように用いればよいのか説明する活動を取り入れる。

(2) 児童・生徒質問調査の結果について

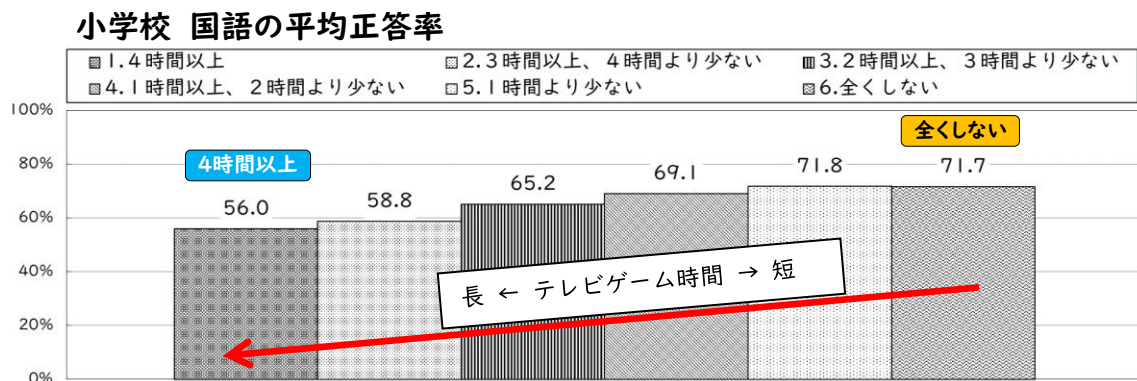


【生涯にわたり健康で活力ある生活を送る力】

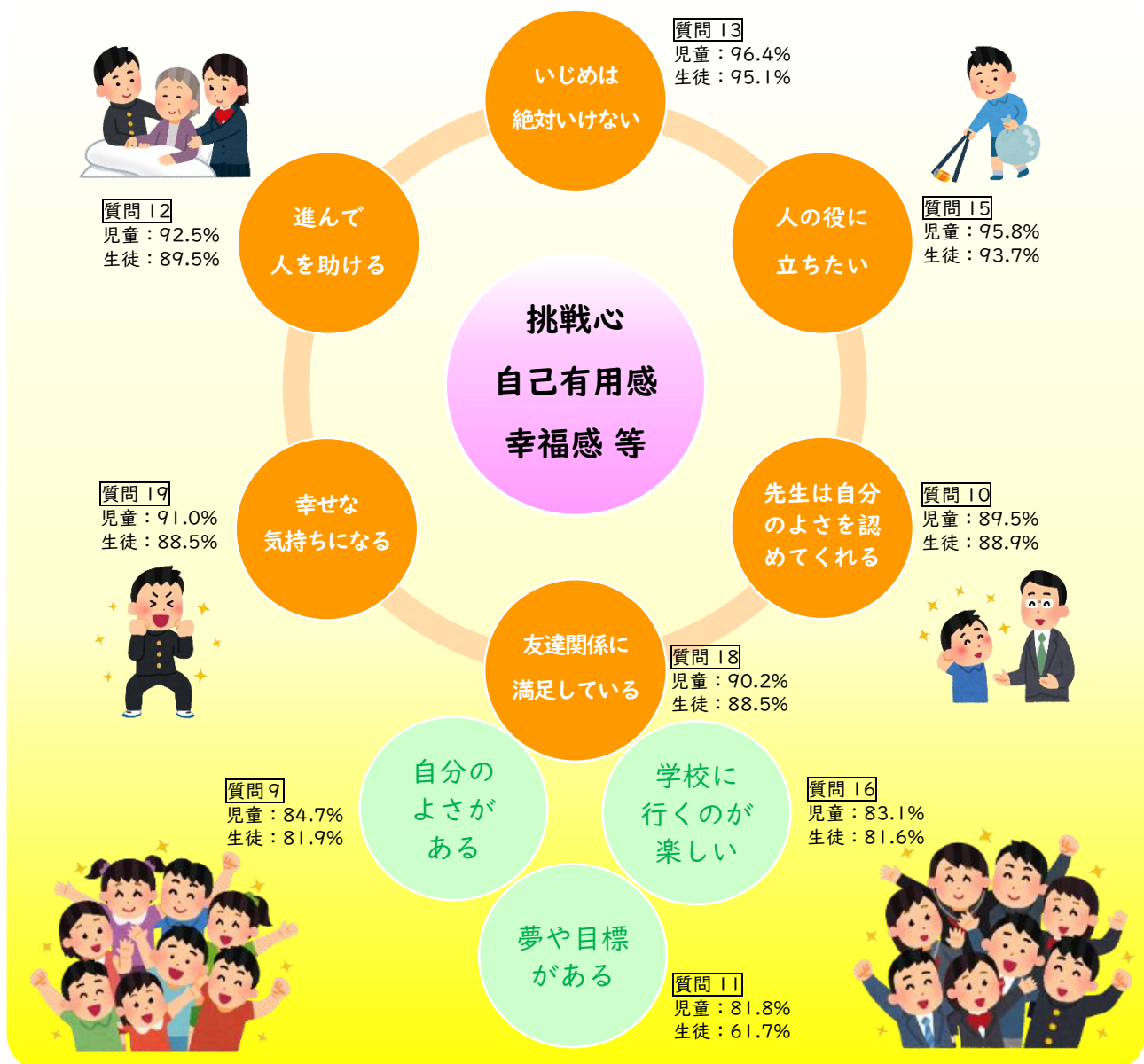
本市では、多くの児童・生徒が、家庭の支えを得ながら、毎日、ほぼ決まった時刻に起き、朝食を食べるという規則正しい生活を送っていると考えられます。

一方で、毎日、同じ時刻に寝ている児童・生徒の回答率は、昨年度に比べて増加していますが、引き続き全国の回答率よりも低い値となっています。また、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をすると回答した児童・生徒の割合は（28ページの質問5参照）、小学校34.7%、中学校33.8%であり、小学校の方が高い回答率となっています。さらに、これらの数値は、引き続き全国平均よりも高い値となっています。児童・生徒質問調査と教科に関する調査のクロス集計から、テレビゲームの時間が長いほど、教科の平均正答率が低くなる傾向があることが分かります。

質問5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。



子どもたちが生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができる力を身に付けるためには、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることや、自らの健康状態を把握し、基本的な生活習慣を定着させることが大切であると考えられます。そして、この実現には、家庭の支えがとても重要になると言えます。

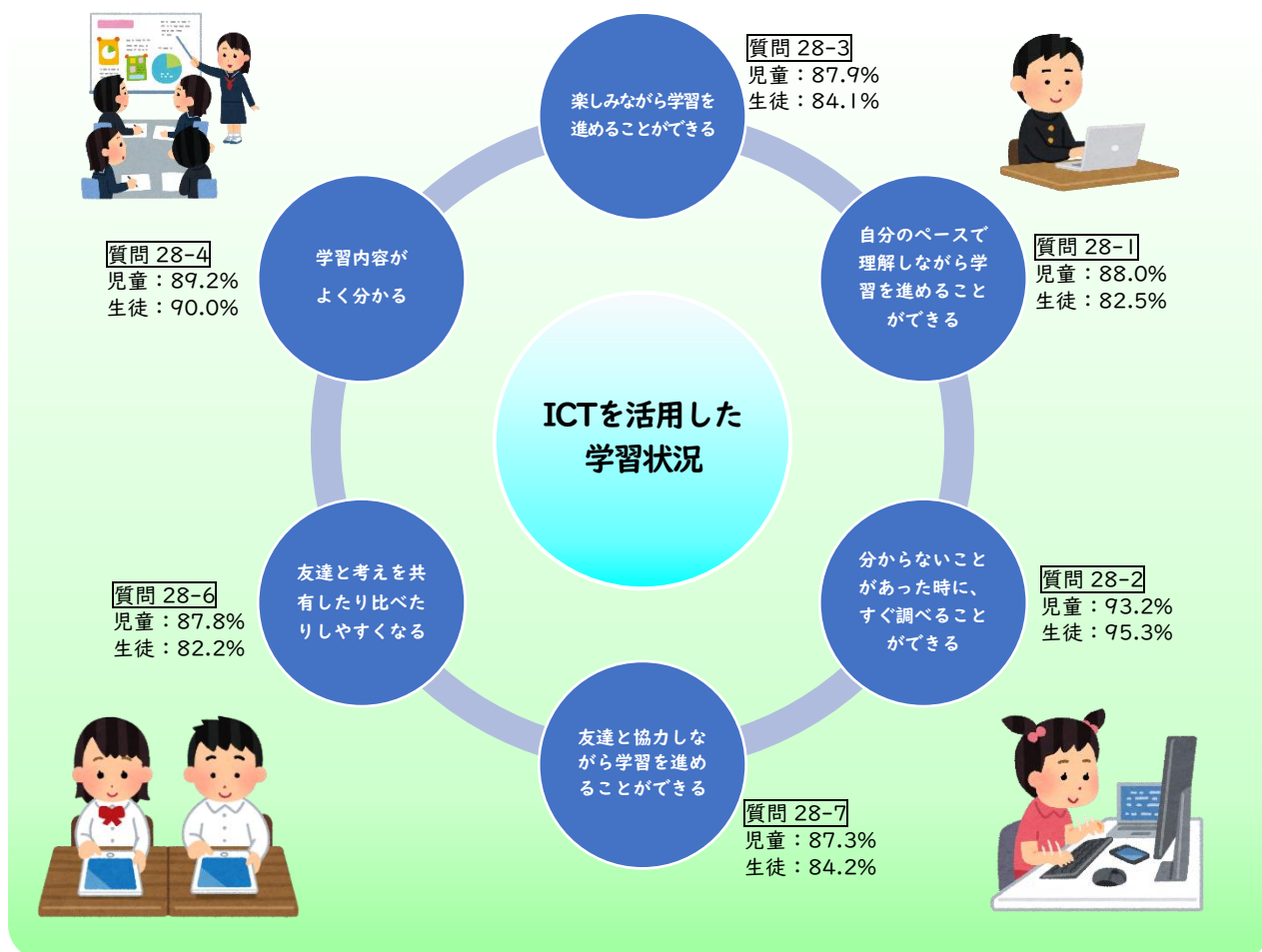


【自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力】

本市では、自尊感情が育まれるような学級・学校環境の中で学校生活を送る児童・生徒が多いと考えられます。また、お互いのよさを認め合い、支え合う人間関係づくりが進んでいると考えられます。

今後も、人間尊重の精神を基盤として、全ての教育活動を通して、児童・生徒の発達の段階に応じた人権教育の充実を図り、あらゆる立場の人がお互いにかげがえのない人として尊重し合い、多様性を認め合える児童・生徒の育成が求められます。

また、変化の激しいこれからの社会において、一人一人の子どもたちが安心して自分の可能性を伸ばし、自立した個人として心豊かにたくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要となります。そのために、家庭での会話を通して、子どもが自分に自信を持ち、多様な課題に対して前向きな気持ちで取り組むことができるよう、子どもが持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自己有用感を高められるような関わりの積み重ねが引き続き求められます。



【ICT 機器の積極的な活用】

ICT 機器の活用回数（週3回以上に回答）についての質問（質問 27）では、小学校（5年生までに受けた授業）及び中学校（1、2年生までに受けた授業）ともに全国平均を上回っており、日々の授業の中で児童・生徒が ICT 機器を活用している様子が見えてきます。特に、中学校では活用回数が年々増加傾向にあります。

【ICT と児童・生徒との関係性】

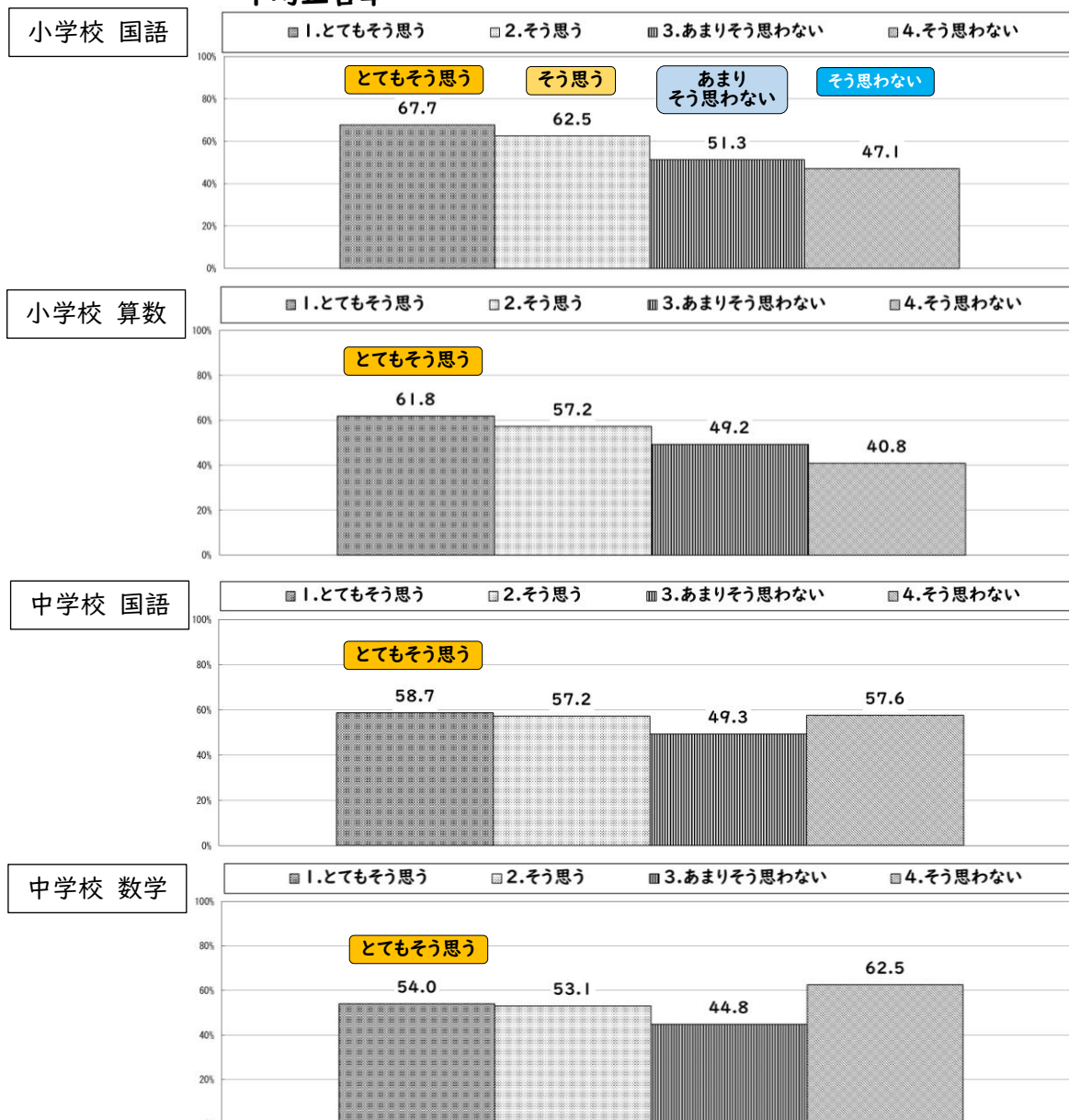
多くの児童・生徒は、学習の中で ICT 機器を活用することについて肯定的に受け止めている様子が見えてきます。

小学校においては、児童が授業のめあてを達成させるための“学習支援ツール”として活用されており、ICT 機器の活用が資質・能力の育成に直接寄与するものと考えられます。

中学校においては、いつでも、どこでも、必要な時に使える筆記用具や辞書、カメラ、コミュニケーションツール、集計・分析ツールなどの“道具”として利用され、この道具を通して集めた情報の活用が生徒の資質・能力の育成に寄与するものと考えられます。したがって、集めた情報を整理、分析することを通して自分の考えを明らかにし、文章等で分かりやすく表現する学習活動を意図的、計画的に設定することが資質・能力の育成にとって重要になると考えられます。

質問 28-2 5年生(1、2年生)までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。
(2) 分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。

平均正答率



小学校においては、肯定的な回答をしている児童ほど、国語及び算数の平均正答率が高いことが分かります。一方で、中学校においては、小学校のような関係性が弱いことが分かります。

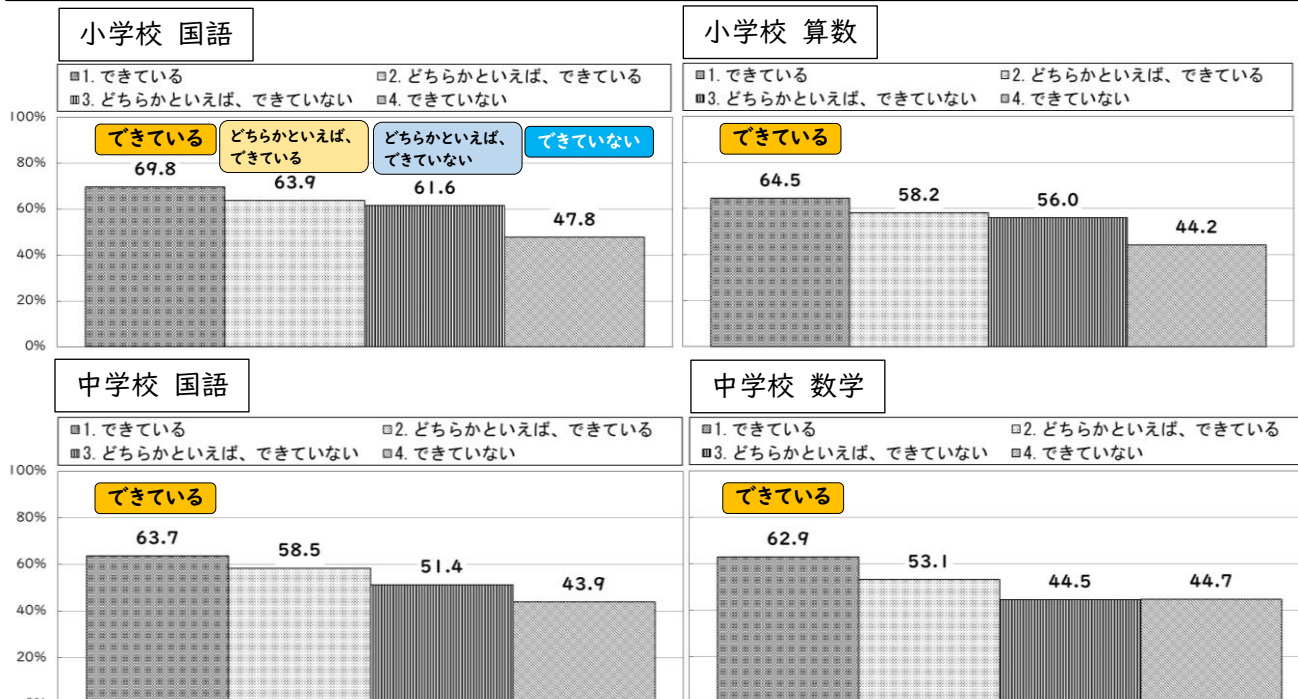
6 あつぎの学びの充実・改善のヒント

【児童・生徒質問と教科（国語、算数・数学）の平均正答率とのクロス集計分析結果より】

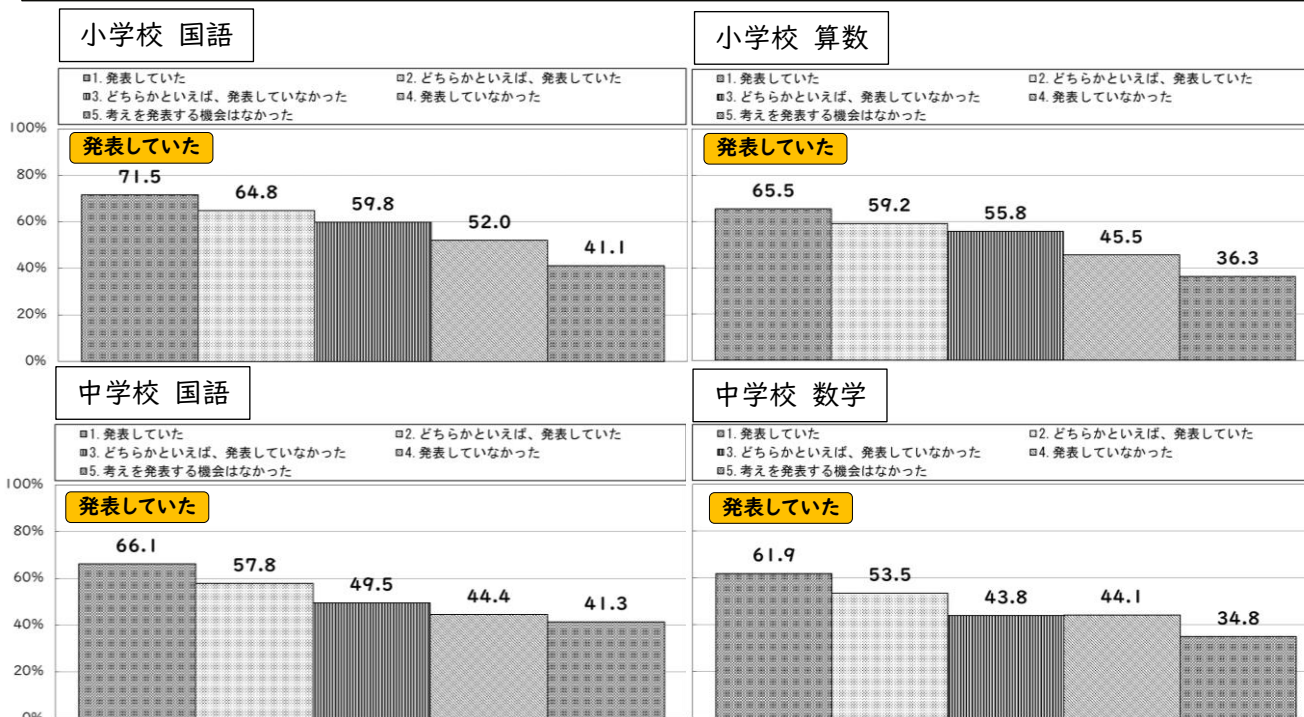
クロス集計は、相関関係（※）がみられるかを分析したものであり、因果関係を示したものではありません。

※ 2つの項目の間の何らかの関係性のことをいいます。

質問 20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

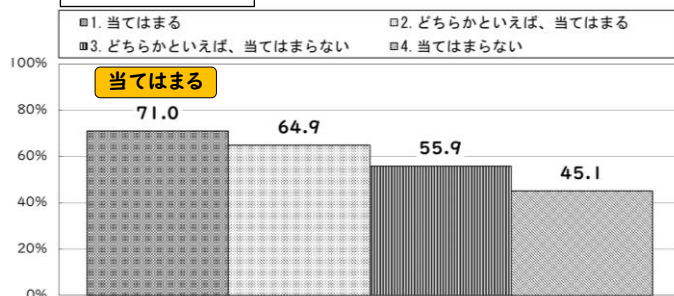


質問 29 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

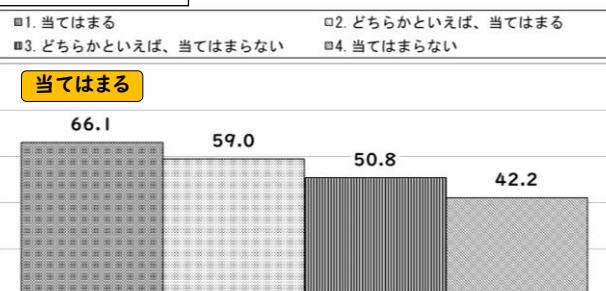


質問 30 5年生（1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

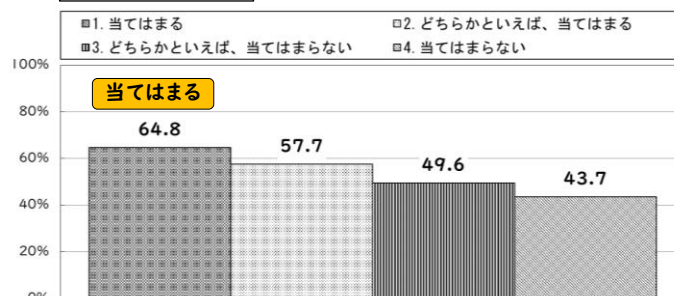
小学校 国語



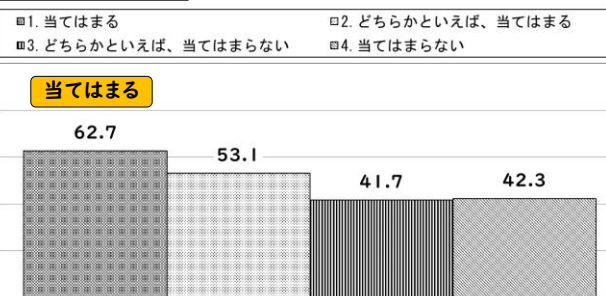
小学校 算数



中学校 国語

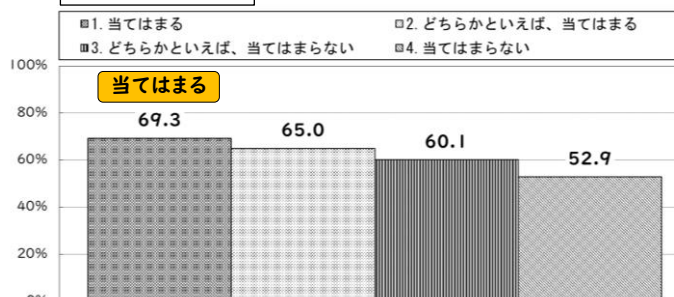


中学校 数学

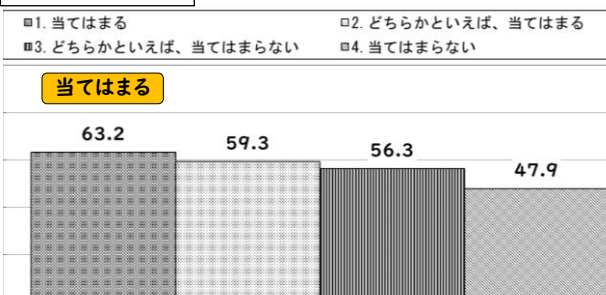


質問 34 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

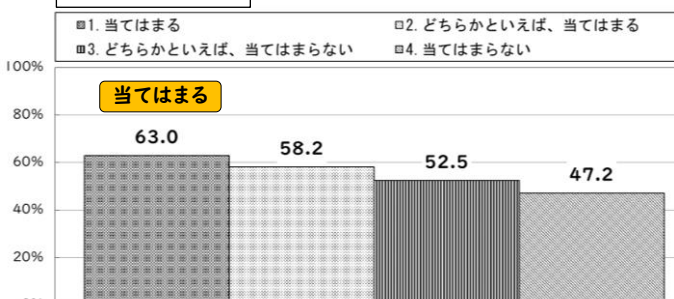
小学校 国語



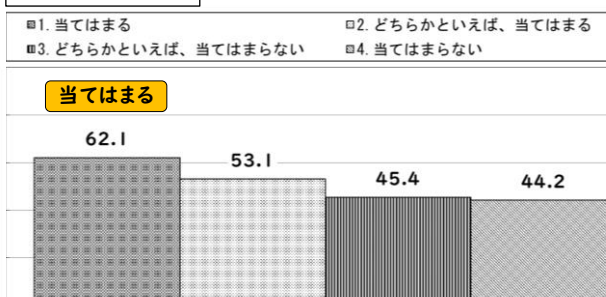
小学校 算数



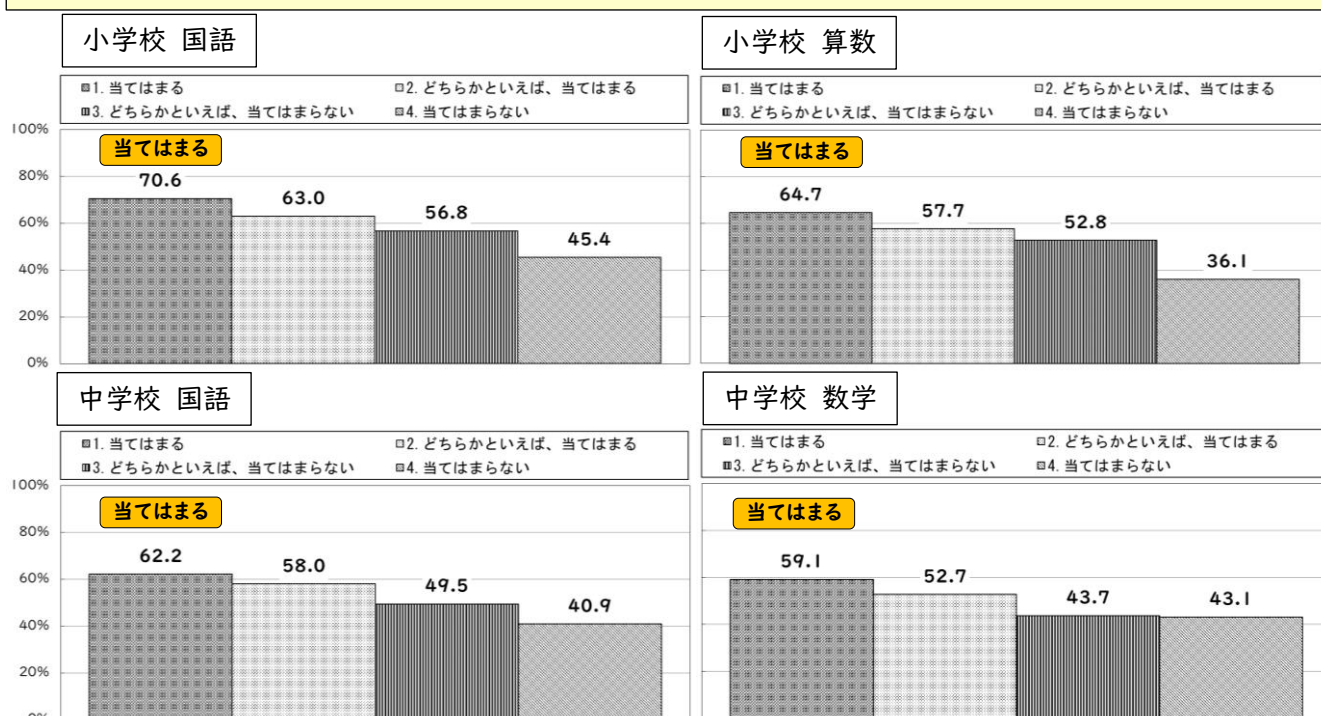
中学校 国語



中学校 数学



質問 38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



【変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してよりよい社会を創る力の育成】

学校においては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養といった、資質・能力の育成を重視した教育を展開するために、全ての教育活動において、児童・生徒が単に知識や技能を獲得するのではなく、学んだことを活用したり、考えを伝え合ったり、試行錯誤しながら自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けることができる学びの機会を引き続き充実させることが求められていると考えられます。また、児童・生徒一人一人の学習の成立を促すための「評価」という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童・生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切です。

